

西国巡礼慈悲の道

西国第二十九番

青葉山

松尾寺

鬼気迫る大安心

名誉住職

松尾心空



これは、二〇一三年十一

月初め、NHKのラジオ放送で聞いた話です。作家高

見順が癌のため死期が近く

なって、旧制一高時代の同

級生、中川宗淵師が見舞っ

ています。時に中川師

は、アツと驚く医師を尻目

に、高見の生命維持装置を

田風太郎著「人間臨終図鑑」から引用されています。中川師は我が友の息遣いをそれとなく眼にしなが

経文を誦みつづけていたのでありましょう。また恐らくは、その日のあることを、高見順は生前師に依頼

していたのでありましよう。そこには、綿々たる生への執着がなく、誠にカラリとした生死一如の面目がみ

られます。とはいえ、維持装置を外して後の一瞬一瞬は、まことに鬼気迫るものを覚えます。

あえて師の話題を述べたのは、私自身、西国、四国の徒歩巡礼を重ねて七千軒を歩んだ所以の一端は、極

度に弱視の山本玄峰老師

(後の中川宗淵師の師)が

四国八十八ヶ所を巡ること

六回半、三十三番雪隠寺に

行倒れになりそうな有様で

訪れた時、住職山本太玄師

に救われて出家した話が大きな示唆になりました。

ところで、後日、当の玄峰老師の生涯を語る高木蒼悟氏の著「玄峰老師」(大蔵出版)が知人より贈られてきたのですが、その裏表紙には、何と二頁にわたっ

て中川宗淵師の見事な文字が書き込まれていたのあります。

NHKラジオの感動の話題を通じて、改めて「龍水を得たり」の文字を見つけたものであります。



西国三十三所礼所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

この「西国巡礼慈悲の道」は、納経の際に1枚ずつ受け取って頂き、表紙をつけると1冊の法話集になります。

西国第二十九番

まつのおでら
青葉山 松尾寺

真言宗醍醐派

御本尊／馬頭観世音菩薩 開基／威光上人

そのかみは いくよへぬらん たよりをば
ちとせもここに まつのおでら

✽ 主な年中行事 ✽

春季彼岸会 7日間（先祖塔婆廻向）

5月7、8日花祭大法要

8日に仏舞（重要無形民俗文化財）奉納

秋季彼岸会 7日間（先祖塔婆廻向）

10月下旬 柴灯大護摩供養

その他 手洗のお札・ウスシマ明王

台所のお札・三方荒神

馬頭尊に因む競馬・ペット祈願

◎松尾寺名誉住職著作集

「歩行禅」「西国札所古道巡礼」「西国札所徒歩
巡礼地図」「人生往来手形」「極楽往生手形」
「即身成仏手形」「現代いろは歌留多」「人生ま
んだら」「猫と和尚さん」「妖説水子地蔵」「人
生の達人」「人はなぜ巡礼に旅立つのか」「巡
礼まんだら」（以上東京・春秋社刊）「歌僧天田
愚庵ゝ巡礼日記。を読む」（東京・すずき出版）

❀ 観音風光 ❀

当寺山主の団体参拝客への法話は予約が
必要。

門前の茶店で軽食可能（冬期と、土、日、
祭日以外休店）。

青葉山頂より日本海を見遥かす風景は絶
景である。

舞鶴市内では、引揚記念館、赤レンガ博
物館、近畿第一位の眺望に選ばれた五老岳、
海上自衛隊の記念館、自衛艦見学などがあ
る。

宝物殿公開

春秋二季に各二ヶ月間国宝・重文を開陳し
ます。

ご詠歌の意味

「そのかみ」とは「往昔」と書く。昔々大昔から幾世代経てきたであろう、杖とも柱と
も頼む心の拠り処、本尊馬頭観世音菩薩は、これからも将来幾千代かけて、この聖地で参
拝者を迎え待っていてくださることであろう。「まつ（松）」は「待つ」の懸け言葉である。

〒625-0010 京都府舞鶴市字松尾532

TEL 0773-62-2900／FAX 0773-62-2028

納経時間 午前8時～午後5時

JR 東舞鶴駅前より、2時間貸切観光タクシーあり
(5,000円)。

申込先 同駅前、舞鶴トラベル（TEL 0773-62-2662）

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。